

私の思い出写真館

イラン・マシュハドの訪問

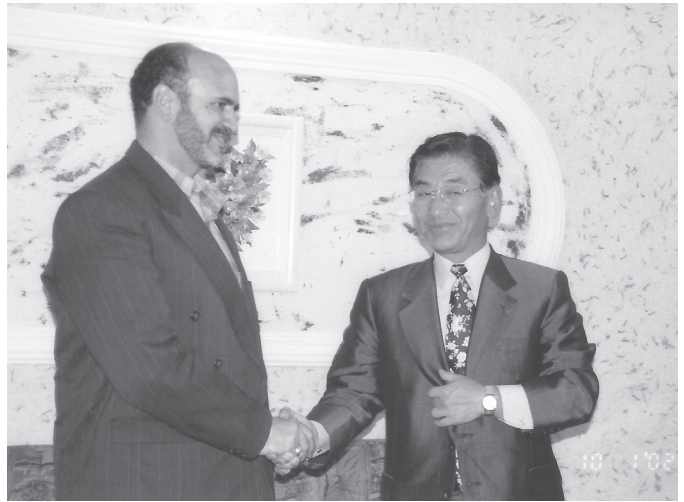


西村 和義
日本信号
取締役会長

今から約8年前の2003年9月30日～10月3日にマシュハド市LRT鉄道建設プロジェクトに参加するためマシュハドを訪問した。マシュハドという街は、首都テヘランから空路で約1時間40分。アフガニスタンとは山脈を挟んで国境にある。

マシュハドの街は、マシュハド・モガッタスとも言い、聖なる殉教地という意味がある。その名の通りイスラム教シーア派にとって非常に重要な聖地で、イランだけでなく近隣諸国からも多くの巡礼者がこの地を目指してやってくる。16世紀に入り、サファヴィー朝の下イランで最も名高い巡礼地としての地位を確立した。飛行機、夜行バス、そして、列車に揺られ各地からやってきた巡礼者は、まだ暗いうちから聖地を目指す。

そのマシュハドの街に路線長18.2kmの鉄道を建設することになり、その信号装置を当社が受け持つことになった。そもそもイランと当社との関係は、1959年テヘラン～ホッラムシャフル間の信号装置を納入したのが始まりで、1971年



マシュハド市長とプロジェクト成功のための握手

には北西線、そして南東線にも信号装置を納入しており、イラン国鉄をはじめとして非常に良好な関係を保っている。

この市街地を走るLRTの建設に当たり、これを主管するマシュハド市、ならびにムルコ運輸機構が一堂に会して親交を深めた。

私が訪問した時、たまたまこの地でアフガニスタン支援国際見本市が開催されており、その会場で、遠い国から来た日本信号に対し、ラジオ・インタビューに出演依頼があつて、マシュハド市長、ムルコ鉄道総裁と私がイランの未来と、今後の進むべきポイントについてインタビューを受けたことは生涯忘れられない出来事である。

その後、アメリカとの国家間問題が発生し(例の核開発問題)、当初の予定では2005年1月開業であったのが相当遅れてしまった。最近やっと工事が急ピッチで進められ、今年末から来年早々にも開業されることになり、今から楽しみにしている。

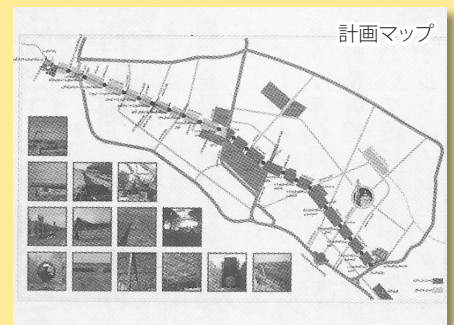
注) LRT : light rail transit



ムルコ鉄道総裁との懇話



マシュハド市内のLRT視察



計画マップ